

『日本統計学会公式認定 統計検定2級対応 統計学基礎』正誤表 (3刷)

該当箇所	誤	正
19p 12 行目	このような変数を	このような多値変数を
21p 下から 6 行目	度数分布表は	ヒストグラムは
56p 4 行目	偏差の標準偏差を用いて	偏差の二乗を用いて
61p 1 行目	予測値 $y_i = \hat{\alpha} + \hat{\beta}x_i$ の	予測値 $\hat{y}_i = \hat{\alpha} + \hat{\beta}x_i$ の
63p 下から 13 行目	用いることに	用いることを
63p 下から 5 行目	ここでは $p=1$ である	単回帰モデルでは $p=1$ である
64p 表 2.7	単回帰モデルでの分散分析表 ($p=1$)	回帰モデルでの分散分析表 (単回帰モデルでは $p=1$)
68p 下から 3 行目	予測値 $\hat{y}(a_k)$ があるが	予測値 $\hat{y}(a_g)$ があるが
97p 下から 6 行目	データ数 n あるいは	データの大きさ n あるいは
98p 2 行目	幾何分布の平均は	幾何分布の平均値は
108p 下から 2 行目	データ数が十分大きい場合は	データの大きさが十分大きい場合は
124p 下から 6 行目	$z = (\bar{x} - \mu)/\sigma$ について	$z = \sqrt{n}(\bar{x} - \mu)/\sigma$ について
129p 下から 4 行目	右の裾が広い	右の裾が長い
133p (4.3.4)式内	分子部分 $\bar{x} - \bar{y}$	分子部分 $d - \delta$
134p (4.3.5)式内	3 番目の式右辺 [1.68,8.72]	3 番目の式右辺 [1.7,8.7]
157p 2 行目	餌の選び方が	チームの選び方が
174p 8 行目	とされているが, メンデルのおこなった実験における	とされている. Mosteller が紹介しているメンデルの実験では,
185p 6 行目	説明変数がカテゴリカル変数の場合に	説明変数が質的変数の場合に
187p 8 行目	部屋の大きさ徒歩時間を	部屋の大きさと徒歩時間を
188p 表 6.1	左 (変動要因) の列 モデル 残差 データ	左 (変動要因) の列 モデル 残差 合計
191p 13 行目	n 個ずつデータを収集した	n 個ずつ観測値を収集した
191p 下から 1 行目	分散分析表も表 6.3 のように	分散分析表も, $n > 1$ の場合を含めて表 6.3 のように
192p 表 6.3	平方和の列・残差の行 $SSQ_E = \sum_{g=1}^G \sum_{h=1}^H \sum_{i=1}^n \{\bar{y}_{gh} - (\bar{y}_g + \bar{y}_h - \bar{y})\}^2$	平方和の列・残差の行 $SS_E = \sum_{g=1}^G \sum_{h=1}^H \sum_{i=1}^n \{y_{ghi} - (\bar{y}_g + \bar{y}_h - \bar{y})\}^2$
199p (7.2.5)式内	ゝ	ゝ
199p 7~8 行目	たとえば, 二項分布の和の分布を用いて母比率を検定するには, 二項分布は和の分布	たとえば, 二項分布を用いて母比率を検定するには, 二項分布はベルヌーイ試行の和の分布
205p 下から 6 行目	回なので, 平均として 0,1,⋯,18,19 回	回なので, 0,1,⋯,18,19 回

210p 4 行目後半	$= \lambda e^{-\lambda t} = P(T > t)$	$= e^{-\lambda t} = P(T > t)$
211p 下から 4 行目	標準正規確率変数 z^2 の和についても	標準正規確率変数の二乗の和についても